

日吉台地下壕保存の会

会報

第29号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

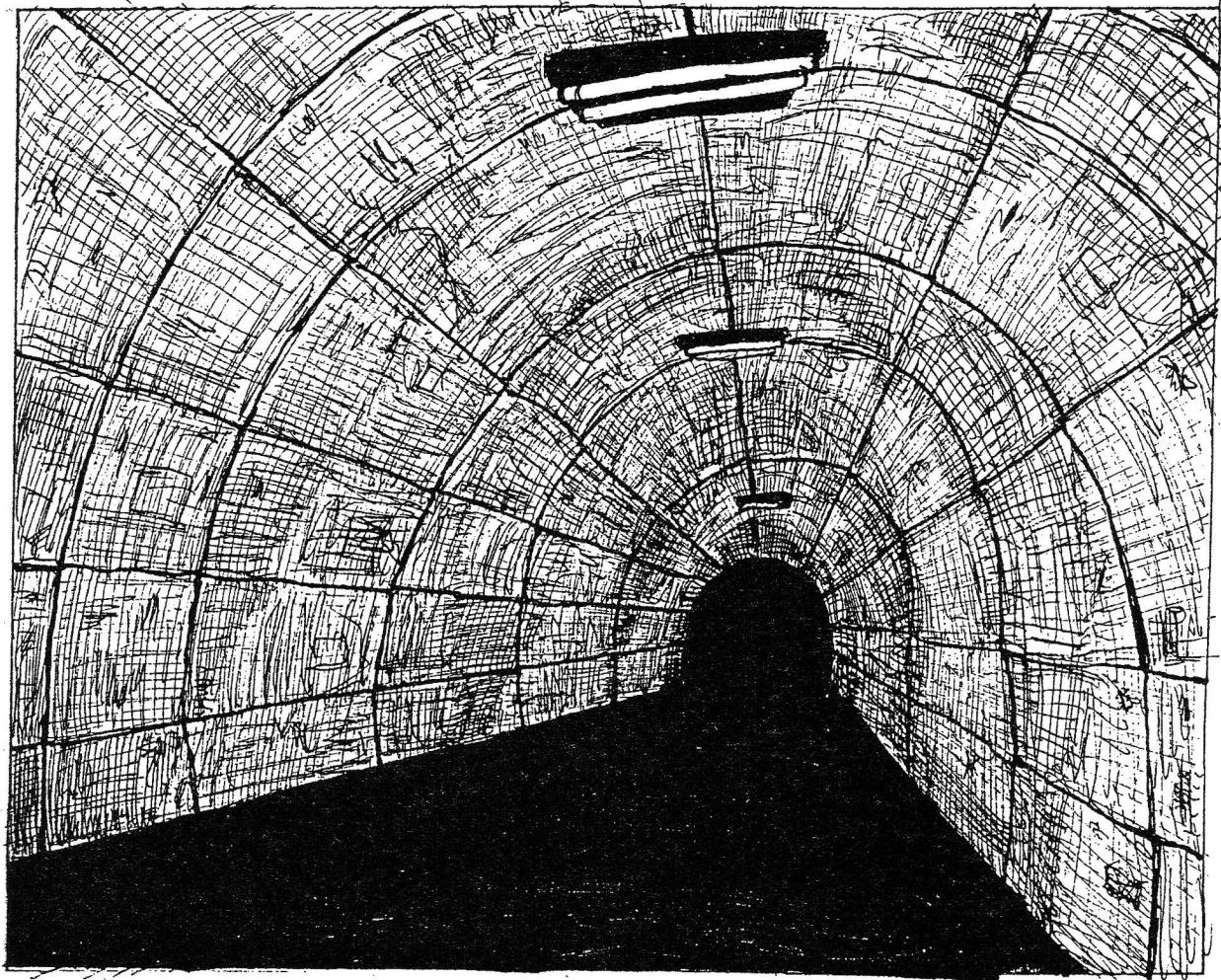
223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL. 045-562-1282

(年会費) 一口千円で、一口以上

郵便振入(口座番号)横浜 5-74921

(加入者名)日吉台地下壕保存の会



目次 ページ

「特攻」と「原子爆弾」	2 ~ 3
日吉台地下壕見学会感想文	4 ~ 5
連載日吉台地下壕	
当時の関係者の思い出話	6
旧陸軍登戸研究所のニュース	7
幹事会報告	8

日吉台地下壕内部 岡上そう画

「特攻」と「原子爆弾」
くその責任を問う

あの戦争をめぐつての半世紀の時が過ぎていく——。

昨年一九九三年はこの日吉の学舎から学生の姿が消え失せた「学徒出陣」の日から五〇年目であつたし、翌一九九四年の今年は「学童疎開」

(小学生)、「勤労動員」

(中学生)と幼少年世代が一斉に戦時体制に組みこまれ、また連合艦隊司令部と変つたこの日吉の地からの出撃命令で、はじめて特攻作戦が開始された年から五〇年目に当る。特攻作戦は日本軍の戦争末期における最後の攻撃戦法であり、一方アメリカはその半年後に投下する原子爆弾が最終のものとなる。たつた一発

が計画され実行されていたのである。

幹事　谷栄

の爆弾が万余を越える人命を無差別に奪うものであれば、たつた一発の爆弾を抱き一〇〇%自死が保障される攻撃とは、ともに史上はじめて行われた戦法であり人間の存在を無に導く戦争の本質を余すところなく表わすものであつた。

特攻作戦はやがて空からののみでなく「人間魚雷」として海中からも行われる。敗戦数ヶ月前から私は帝都防衛の地上部隊の一兵士として九十九里浜近くに駐屯していた。上陸時撃退の戦術としてサイダーボンにガソリンをつめ、それを抱いて敵の戦車に肉薄、体当り攻撃を行うという訓練をうけていた。空・海・陸と正に全軍あげての総特攻化作戦

なく、ただ敵の航空母艦に向つて吸いつく磁石の中の鉄の分子に過ぎぬのです。理性をもつて考えたら実に考えらるべき事で強いて考うれば、彼らのいうごとく自殺者とでもいいましょうか。精神の国、日本においてのみ見られる事だと思います。· · ·

翌一九四五年五月二一日、

特攻隊員として沖縄嘉手納湾

の米国機動部隊に突入自爆死する。享年二二才。敗戦より僅か三ヵ月のことである。

戦後アメリカ国内では無謀な作戦により不要な戦死を遂げた兵士の遺族達がその指揮官を告訴するという例が數々

あつたことを私は最近知ったのだが、とすれば日本の場合はどうなのだろう· · ·。

· · · 空の特攻隊のパイロットは一器械に過ぎぬと一友人がいつたことは確かです。操縦桿を探る器械、人格もなく感情もなくもちろん理性も

一〇〇%の必死行為を命じた者の責はその何層倍のものな

のか、ばかりしれない。

日吉の安全地帯から特攻作戦を指令した長官豊田副武も、陸海軍の統帥権をもつ大元帥昭和天皇も、戦後占領軍による戦犯指定を免れたし、また日本民衆からの告発をうける

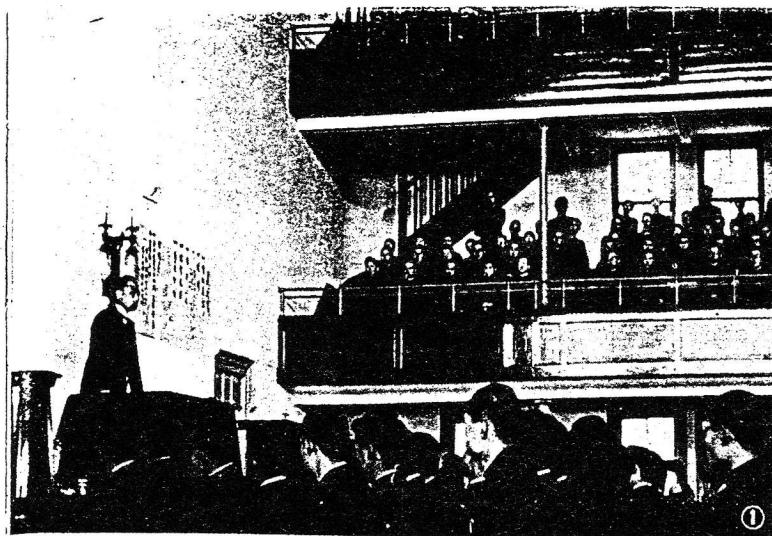
こともなかつた。——それから五〇年、かつて日本軍によって侵略されたアジア各地の民衆から日本の戦争責任と戦後補償を求める運動がつぎつぎと起つてゐる。

“従軍慰安婦” “ロームシャ”

“旧日本軍兵士”と様々の様相の中にこの国の犯した加害の酷さを改めて知る。と同時に自らの立場で自らの国の責任を問わなければと思つた。

この追求がアジアの民衆に應え戦争を共有する一つの途になるのではないかと私は考へる。

戦争の重さは時とともに決して軽くなり失せていくものではない。逆にその加重度は年とともに増しつづける。それは加害者と被害者という相反する面が重なり交りあい、わりきれないきしみをともなう。国の責任を問うという中には自分自身の責もまた含まれることを認めつつ、私は日本の特攻攻撃と米国の原子爆弾投下とを告発したい。



学徒出陣における塾長訓示
図説慶應義塾百年小史
1858～1958より

「……私の理想は空しく敗れました。人間にとつて一

特攻50周年青春展

期間：8月9日～9月20日

場所：慶應義塾大学三田
新図書館1階右奥

下車駅：JR田町駅
地下鉄三田駅
バスもあり

~~~~~

国は興亡は実に重大な事であります、宇宙全体から考えた時は實に些細な事です。  
・・・

上原良司はこうも書き遣している。

その理想を離らせなければならぬ。

生あらば今年七一才、私と同じ年齢である。

日土口地下壕  
見学者会感想文

一九九四年五月一七日

慶大白井ゼミ

★空気がとてもひんやりしていて、それが妙に当時の状況を感じさせる。

朝鮮の人々が厳しい条件で働かされたことを思い複雑な気持ちになった。

★地下壕は予想したより広く長く、いかに沢山の人が動員されたか、また、使用したのは昭和一九年九月～二〇年八月で、当時の日本の軍の中枢であったということが、その地下壕の大きさを見て、わかった。あれほど大きな地下壕が必要なほど太平洋戦争は大規模で多くの物質を必要とした。戦争を知る上で非常に貴重な体験だった。

★寒かつた。戦争当時の遺物

を実際に初めて見学したので、自分には縁がないように思つていた戦争を、身近に生々しく感じることができた。

★素掘りでここまで広大なものを作ったのはすごい。ただその時酷使された朝鮮の方を考えると、とてもひどいことを日本人はしたんだなど痛感する。知らずのうちに穴掘りで死んでいった彼らに向らかの形で謝罪すべきだと思った。

★予想以上に規模が大きく、又、しつかりしたつくりであった事に大変驚いた。当時、あちらこちらで人々が動き回り、大変大きな働きを成していたことが信じ難くも思えた。当時の様子を明確にするような写真などがあれば、照し合せて見たいと強く感じる。活気のあつた地下壕が今のよう

に暗く静まりかえっている様子に、歴史の流れ、経過を感じにはいられない。

★単なる地下壕にすぎず、自然の一部と一体化している感じがした。

★泥水が予想以上に深く、レンジシューズに入りそうだったの、残念ながら途中で引き返した。写真や文章で書かれた記録と違つて、生々しく戦争中の状況が伝わり有意義だった。

★次回こそ長靴を田舎よりもよせてから来たい。卒業された先輩方から聞いていたので、もっと立派なのを期待していた。照明の跡、水道の跡以外は当時使用された跡がないのが少し残念だった。

★自分達の世代では戦争に関する事物に接する機会がないだけあって、高さや幅が機械でつくったように整つてい

いたと思うと「歴史」を感じることができました。

★戦艦の遺跡がそのままの形で残つてるので驚いた。戦艦大和の出航命令が出たなど

と聞くと非常に感慨深い。鍾乳石ができるているのを見て、戦争が終つて長い時間が経つたことを改めて感じた。

★思つていたよりも大規模なものだった。戦争というものをより身近に感じることができた。

★地面のぬかるみをのぞけば保存状態もよく、五〇年というのは長いようで短いと感じた。

★自分達の世代では戦争に関する事物に接する機会がないので大変に興味深い体験だった。

★何もないところだった。これだけの規模のものが、どうしてあまり知られずにいたのかが不思議。

★さまざま命令が出されて

★戦時中の姿からは少し変化していたが、取り壊されることはなく残されていることは有意義である。戦争を身近に感じる所が年々減り続けているだけに、戦争について語りかけるような形にして後世に残して欲しい。長靴で良かった。

★昭和一九年三月になつて、大規模な地下施設を海軍が真剣に設けたことに少々、面食らつた。敗戦必至の状況で、あそこまで本格的な施設を作るあたり、当時の軍人の無謀さを感じざるをえなかつた。

★戦争に関する情報を得たというより、半世紀もの間、放置されていた廃跡としてのすさまじさに強い印象を持つ。

★まず、最初に失敗がありましした。長靴持参といわれたにもかかわらず甘くみて持つてこなかつたことです。しかし、奥へすすんでいくにつれ、段

々と氣持が高ぶつてしまい、そんなことは関係なくなつてしまひました。それだけ地下壕にはひきつけられる歴史の重みを感じました。

★戦争当時の様子を想像させていただきました。保存だけではなく、もっと活用していただきたい。

★あれだけのものを掘るには大変なことだったろうと思うし、それにたずさわつたのが、

朝鮮人と聞き、そこにも、朝鮮とのからみがあることを知りました。あんな穴の中で我々人間が国を守る為とはい、會議その他をやつていたことを想像するとやはり戦争は狂氣と思わざるをえません。

★旧軍の施設を見るのは初めてです。子供の頃に見聞した軍人、また空襲のことなどあらためて思い出して胸にドシンと来る思いです。



地下壕見学の必需品

★保存についてのご意見は?

★戦争遺物をマイナスの遺物と考えずに、二度とあるような悲惨な戦争を起こさないために、もっと一般に開放して、一人でも多くの人に見学してもらいたい。このまま手を加えずに生々しいままで保存してほしい。

★保存と同時に、一般の人々が見学できるように、修復や説明を行なつていただきたい。

★是非保存してほしい。その理解の補助として資料館をつくると見学者も増えるのではないか。

★地下壕が歴史的遺跡になつたら、朝鮮人労働者のための記念碑をたててはどうか。

★保存を敗戦五〇年を期に実現しましよう。

連載

た。

**日本ロムロ地下壕  
当時の関係者名の  
思い出出証 6**

**地下壕の築城 1**

元海軍第三〇一〇設営隊主計長・御厨氏に地下壕建設について伺います。

**御厨 文雄氏の話**  
(ききて: 寺田貞治)

昭和一九年八月、海軍第三〇一〇設営隊が結成され、日吉の連合艦隊司令部の地下施設建設を皮切りに、海軍省・軍令部などの地下施設の建設を終戦の日まで続けた。このような建設の仕事を海軍では築城と呼んでいた。

第三〇一〇部隊は、大工・左官など徴用の兵からなり、一二〇〇人がいた。最初の仕事は慶大寄宿舎の改造であつ

しばらくして民間の鉄道工業(株)から二〇〇〇人が派遣されてきて、昼夜三交代で地下壕を掘りはじめた。鉄道

工業(社長菅原通斉、戦後解散した)は鉄道工事専門企業で、特にトンネルを掘るのが専門であった。

二〇〇〇人の派遣員のうち、少なくとも七〇〇人位が朝鮮人労働者であった。朝鮮人労働者には難工事をやらせ、待遇もひどかったようだ。現場に行くと面倒なことが起こる恐れがあるので、近づかないようにしていた。

地下築城はかなりの重労働だったので、時々酒など気付けたため調達して出したりした。酒は豊富にあり下士官までもよく届けた。タバコ(黃金バット)は一日八本配給があつた。

慶大日吉キャンパス内の地下施設が完成したのは、二〇〇五年月中旬であった。

設営隊の上層部は文官が多く、後で士官になつた。

私は主計中尉で正確には主計長職務執行という肩書で、給与、被服、食糧等の調達のほかに、施設営用の原料、資材の購入調達などの仕事をしていました。

昭和二〇年七月二五日、柔

はじめ現高校校舎にいたが、

谷のり子など松竹の演芸部の人達がきた。終了後、管理責任者の牧先生から仕切の壁を取払つたことで文句をいわれた。

剣道場の仕切を取払つて演芸大会をやつた。田中絹代、淡

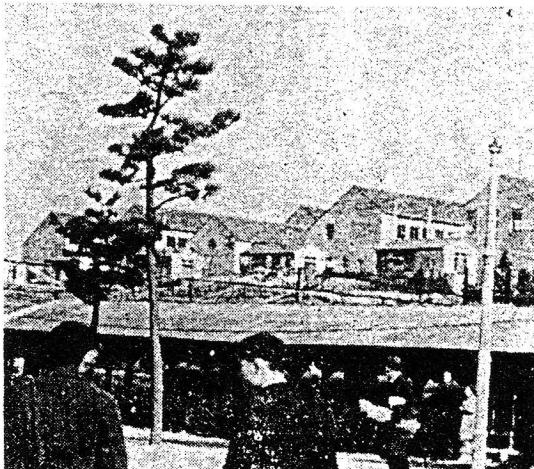
海軍省人事局が書類を持って引越してきたので、藤原工大(現第四校舎辺り)の木造校舎に移つた。空襲の時には高校校舎近くの地下壕に避難し

た。藤原工大の校舎が空襲で焼けてからは、バラックを建てて仕事をした。

昭和二〇年七月二五日、柔

海軍省人事局が書類を持って引越してきたので、藤原工大(現第四校舎辺り)の木造校舎に移つた。空襲の時には高校校舎近くの地下壕に避難し

た。



(生協ニュース教職員版第五  
一号より抜粋転載)

日吉駅より藤原工大  
学部校舎を見る  
慶應義塾大学工学部  
三五年史より

(7)

# 陸軍登戸研究所 全容解明へ本格調査



研究の建物を測定する明治大・中村ゼミの学生たち

「平和のための戦争展」開催時に協力しあつてゐる、法政二高・渡辺賢二先生が調査しておられる旧陸軍登戸研究所のニュースをお届けします。

## 敷地の戦時検証

明大

第二次世界大戦中、日本本土に作られた最大の謀略研究機関で現在の明治大学生田キャンパス（川崎市多摩区東三田）にあつた「陸軍登戸研究所」の全容を解明しようと、おひざ元の明治大学の人文科学研究所と理工学部建築学科の教員らによる研究活動が今年の夏からそれぞれ本格的に動き始めた。同研究所は風船爆弾やニセ札、毒ガスなどの研究をしたほか、中国での人体実験などで有名な七三一部隊とかかわっていた可能性もあるといわれる。現存する研究所施設の取り壊しが取りざたされる中、市民らが進めている保存運動にも影響を与えそうだ。

建築学科の中村幸安助手のゼミでは、今月一日から、現序する第一回公開研究会を開く。

建築学科の中村幸安助手のゼミでは、今月一日から現存する第二十六号研究棟（木造平屋建て）の調査を始めた。建物の測量やくぎ、かわらなどの材質を調べて建築年代や建築にかかるつ。この寸法を測っている。

いくが、手始めに七日までに、建物を測量、設計図を作製する予定。同ゼミの学生ら約十人は、連日の猛暑の中、メジャー片手に各部の寸法を測っている。

調査は今後数年間続けて

た業者などを特定。また建物の木材や敷地内の土中などにしみ込んだ薬品や血液などを化学的に分析し、戦時中の研究内容を推測する。

中村助手は一現在も、国内の大学で、軍事兵器に興連した研究を行うところがあり、学問が戦争に悪用されないようにするためにも詳しい調査が必要と考え

研究所を生み出した思想的背景などを研究する。

文学部の海野福寿教授ら  
七人のグループは先月、明  
大人文科学研究所の総合研  
究として登戸研究所を取り  
上げることを決め、計六百  
万円の予算が大学側から認  
められた。来年度から三年  
間、登戸研究所を通じての  
旧日本軍の軍事作戦や登戸

た。研究棟が保存できれば、保存法の参考資料としても提供していきたい」と話している。

配との関連、軍の中での位置付けなどを調査。また七三一部隊の生体実験と同研究所で行われていた生物・化学兵器研究との関連についても調べる。

グループには森恒夫経営学部教授、飯田年穂政経学部教授らのほか、学外から独自に登戸研究所の調査をしてきた法政二高の渡辺賢二教諭も加わる。

森教授は「明治大で働いているものが、学校の敷地で戦時中に行われたことを検証するのは義務と考えた」と研究グループ結成の理由を語っている。今月中に、具体的な研究方法など話し合う予定だ。

毎日新聞

八・五より

一九九四

## 松井車両云胡報出口第二回

六月九日午後六時

## 慶応高校地学教室

報告

一、五月一二日慶応高二年M組地下壕見学会四三名参加

二、同一七日慶大白井ゼミ地下壕見学会三五名参加

三、六月六日神奈川生協港北支部平和委員会地下壕見学会二八名参加

四、同二一日NTT関係者地下壕見学会予定

五、七月二十四日国立市公民館地下壕見学会予定

六、小園幹事より①「地下壕のパンフ」の横浜空襲の日が五月二十四日になつてゐるが二九日がよくはないか。

②東京や三浦の会合で平和館の問題や戦後補償の問題など意見交換しているなかで、勉強会を持つなら協力する旨、了解を得ているが、

企画してはどうか。

八月一八日(二日)

銀座マリオニー一階

この間「月光の夏」上映

\*貸出すことに決定

三、ピースサイクルとの交流

会について

七月一九日地下壕見学会のあと、六時より藤山記念中

議事

一、第五回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える

全国交流会(長野市・七月三〇~三一日)の参加について

\*幹事に出席を呼びかける

四、今後の活動計画

五、同二一日聴覚障害者団体

の地下壕見学会予定

議事

一、白井ゼミの特攻五〇年の

展示に貸出す資料の搬送について

\*会員の希望を聞く

五、会報二九号について

\*八月二〇日過ぎに発行

松井車両云胡報出口第三回

七月九日一八時(

日吉地区センター)

展示期間、場所

一、六月二一日NTT関係者

\*説明や地下壕の案内ができる人を増やす

二、七月一〇日朝鮮人強制連

行真相調査団(三浦半島地

区教職員・朝鮮人学校の先

生と生徒等)地下壕見学会

\*交流会予定

三、同一九日ピースサイクル

地下壕見学会・交流会予定

四、八月一二日南風原文化セ

ンター(職員・教員・元従軍看護婦等)地下壕見学会

\*交流会予定

五、同二一日聴覚障害者団体

の地下壕見学会予定

議事

# 三浦半島地区の地下壕見学会

主 催：日吉台地下壕保存の会

集合日時：10月9日（日）午後1時

集合場所：京浜急行 追浜駅改札口（東側）

見学場所：横須賀市浦郷町元横須賀海軍工廠地下工場跡など

この地下壕は長さ延べ13kmあり、日本最大と言われる。ここは人間魚雷「桜花」やロケット「秀水」を製造していた。ここでも多くの朝鮮人が地下壕掘削に従事していたと言われる。

案 内 者：神奈川県朝鮮人強制連行真相調査団・三浦半島地区教職員組合の方々

携 行 品：懐中電灯、長靴

費 用：参加費=500円（当日徵収します）

交通費=追浜までの往復乗車券（各自負担願います）

